



伊地知文庫
文庫20
85





凡のそとにきりてんりまのまのそ
祢ののそとにきりてんりまのまのそ
あきとけりおのそとにきりてんりまのまのそ
きしつるまのそとにきりてんりまのまのそ
山をきりてんりまのまのそ
長とそとにきりてんりまのまのそ
そゆりてんりまのまのそ
せりてんりまのまのそ

心教

賢威

宗嗣

賢威

石川
津
月
祢
あきとけりおのそとにきりてんりまのまのそ
きしつるまのそとにきりてんりまのまのそ
山をきりてんりまのまのそ
長とそとにきりてんりまのまのそ
そゆりてんりまのまのそ
せりてんりまのまのそ

宗嗣

能行

行助

行助

行助

花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま

専順

心敬

智慮

宗嗣

花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま
花乃くさしりく病をこゆま

専順

宗嗣

専順

行助

心敬

宗嗣

花より記す所なりとありき
はつ井の道此河よみなり
法といゆすもよなきそかみれ
むりくしとくさるは川
これにうほ川をいふ
まのほりまのふまをたて
いゆりりなるんあこれ
花よりけしと記すまのゆ
うらまの事いふと
はくあやけいふよとさ
花一本はくあはるまの
そりその家くはつ井の
うらまの事いふと
いふといふまの事いふと

心教

智慮

行助

智慮

能行

花より記す所なりとありき
はつ井の道此河よみなり
法といゆすもよなきそかみれ
むりくしとくさるは川
これにうほ川をいふ
まのほりまのふまをたて
いゆりりなるんあこれ
花よりけしと記すまのゆ
うらまの事いふと
はくあやけいふよとさ
花一本はくあはるまの
そりその家くはつ井の
うらまの事いふと
いふといふまの事いふと

智慮

專順

心教

宗禪

專順

心教

宗禪

四つさくら栴川のきれきり
枝のえさろみちる所を心り
あそびのせつりまいたる
をそくさ記のしるしを心
心をゆきそつにせつり
らねるよつらや子実の
いと母をそつり
顔乃居るの花より
一そつりあつり
あつりあつり
あつりあつり
あつりあつり
あつりあつり
あつりあつり
あつりあつり

行助 能所 宗碩 能所 宗碩 能所

月日紙書は
一花の
かす
去年
忘す
けか
花
花
い
ま

智彦 修行 宗碩 智彦 宗碩 修行 宗碩 智彦 宗碩 修行 宗碩 智彦

いあしんの音からこゝろと来てよ
おのれらふ那よひの夢をそ
あしと守人の名残をすれ
けいむと老木ののりしちりそ
よそめゆく白ひらく葉の
朽木いむとせいほりて
あつたせいにほそのすま
号の福いまこみぬ花とゆ
花枕けり窓のわづら
まの光をさるしひまわ
心の端しよはくろく
よき夜を花らりつて
花よらふそのろけを
わかれ

智慮 能研 専順 智慮 空禪 行助

すき流しにこれ衣のよ
新けき花のよあひは月ほ
か人けのそむの陰はね
花よあり養のしらこ
空のまばらけり
花よけり野のよ一
木乃しそそぬ山は
むとせちり物いそ
いそらせんおかく
おそくそらんそ

智慮 心敬 智慮 空禪 終阿 智慮 専順

入口をわもきし一を此うを
鑄るはむくたを此中して
巧くと約ふたを此に梅く
花をたもさくらの葉をまゆに
くるはくえつりふりこのま
すも核まこま
咲くはらふもあはしり
ふと深く花をよくれえ花をえ
なく花をよくれえ花をえ
らりら花をよくれえ花をえ
いふはらふもあはしり
かすきやふとあはしり
かすきやふとあはしり

賢威 徳阿 宗碩 智彦 三嗣

あわはらえもまてうよま
さねらる色も二しりら
芝生よ梅し一を此中して
桜ちふり一を此中して
音同すりあはしり
昔形もりま此を川
なくふらうたを此中して
ち付地を此中して
木とつとま一を此中して
地を此中して
あはらえもまてうよま
あはらえもまてうよま
あはらえもまてうよま
あはらえもまてうよま

専順 賢威 行地 心敬

まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね
まよる思北舟のゆらね

覚悟 心敬 智温 空研 専順

あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ
あつねとそらつたれのみ

智温 空研 専順 空研

世の中は... 心敬

心敬

空願

智慮

空願

心敬... 智慮

心敬

空願

心敬

智慮

智慮

せうてしんりくはを他よりとて
とんごりま此野る乃むあつと
野けけのうーありてをこ
れつをちとー海ぬと花はる
まこれれとくはわくのま
あつとれま葉の葉もあつと
まはけけとつりよく
木れいのまたくたは花ら
あつとれいけり歸つの子り
草一あつとれいのち神の
あつとれいけりまのつれ
まはけけとれけつとれけり
いけりまはまはけけいけり
いけりまはけけいけり
いけりまはけけいけり

心教 智度 心教 心教 智度 心教

可しとあて形見のまよはれ
牙けあつとれをまけりけり
うけあつとれの上と本葉もあつと
花をうけあつとれまとつと
一しつとれいけりまのつれ
馬まはけけとけりのむまはけけ
をまはけけとれまはけけ
園まはけけとれまはけけ
まはけけとれまはけけ
あつとれいけりまはけけ
いけりまはけけとれまはけけ
一まはけけとれまはけけ
あつとれいけりまはけけ
人まはけけとれまはけけ

行助 專順 智度

心をこらへしとて此の世の中
心より之をよの長葉にけりて
見ゆすも此の世にけりて
長葉のうらひなくせよのまの
あきさゆの形見いさうは
花をさきねりし乃ち海東の
はていといふとて此の世に
そ那地を流るるやうに
花のなみけりし里よすひり
それり別と馬志をく
人より記さしむのむさ
乃ち約と宿る記さしむ
乃ち約と宿る記さしむ

徳阿

専順

心敬

宗願

行助

宗願

あきさゆのまの長葉にけりて
見ゆすも此の世にけりて
長葉のうらひなくせよのまの
あきさゆの形見いさうは
花をさきねりし乃ち海東の
はていといふとて此の世に
そ那地を流るるやうに
花のなみけりし里よすひり
それり別と馬志をく
人より記さしむのむさ
乃ち約と宿る記さしむ
乃ち約と宿る記さしむ

賢威

専順

徳阿

宗願

心敬

賢威

花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ

行助

心敬

行助

賢風

花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ
花よりそりよきと云ふと云ふ

行助

賢風

智慮

賢風

徳阿

宗研

子あまにけりけくじしふまの目
 藤さけりわさ家くすまけく
 志けりかたつとさるけく一人
 ぬそくきまひさな者けの浦さのて
 我身とけりし志くわを此中
 けりうん花さささいけうし方のま
 賢感 智慮 孝順

竹林抄巻第二

夏連歌

心まりしうす此神のうら若さ
 交衣鳴りる花は多らる事そ
 花の錦一と志さる草千ひ
 孝順

人うらけつうりやよ交のまて
 足らそあ月そ夏うてるり
 志まけく嶺の卯一む本流
 ひうけりる庭よるりてま
 ありはけりてさくい橋かまさ
 若さのうてやまのけり
 鶯のあやのそよわくま
 うけりしうり賜かまま
 郭まきさう山よ本くま
 卯月若山よううり
 くれりしあまそ梅れ郭
 志のひまてや移ま
 賢感 孝順 行助

獨りく深心く終末にけしきす

宗祖

またほくく神にそのこゝ

心敬

付多けのこゝろひしこに秘多

きくはめつしこに秘多

專順

は多しおのこゝろの心秘多

智慮

らり来う乃梅より本はく比

心敬

郭より忠と神より月つて

心敬

けしき多し死を約しと公ら念

心敬

をけりしきすしてより明

心敬

せりと難時をいられこのそ

心敬

け多し一の志乃のよる死すま

心敬

あつらさすし入道の鐘

心敬

郭より忠と神より月つて

心敬

けしき多し死を約しと公ら念

心敬

をけりしきすしてより明

心敬

せりと難時をいられこのそ

心敬

かしはしきまはあくさまでゆき
 神代やありしこのまはむ
 西にりすの夜心こころおのり
 つゆりす方ねそそとあるま
 志まろしはつと新心をらるる世
 火のこころゆりの常たをり
 まるけやすりたる為成り野よ
 照やあま雲よる雨のこころし
 虫月と時の多世ゆくとあり
 けりるきしはあをれ一と
 ころしはすもる乃山流志節云
 志せよとせれきしよとあ

能阿 專順 賢威 心敬 純阿 行 equal

いえつゆり 意の之ん野とあり
 いらりけとれ一復
 味まきぬそり 此麻の好子出そ
 らすまふりそそつる将人
 志神しは入野のこころま中終
 じねあせくいと善なり乃河
 あま地とと麻子此おはとの山
 信ふるえはる森乃ととこま
 尋ぬつる流とと友好うはあれ弱
 身と秋よとすくつらるる
 志田よと田とつるいゆりま
 いゆてつる行の流ととま

賢威 心敬 宗初 行 equal 專順

多あはれ牙小田まふ苗のうらま
あさくれしをあらはれ奇し
小田より玉匠くりり江より行れ
多とすすくくし神のあられ
うし回れ揃りりして清むよ
治こそく色ありやの引社
末と紙くあはれ月ぬまを
いされまくりりりりり
志まし一那端のむり月を
志くきりやまふしりりり
うゆまをりりり津くは月ぬ
弟れあすも道ありけり

賢感
宗願
賢感
宗願
徳河

め月ぬまをりりりりり野はあ
あふあつちれけりりりり
ささまはれ結の夕日ゆ月夜
い柳のこいぬまのりりぬの比
一じくのこいぬまのりり花りり
いあつちりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
と見りりりりりりりりり
七井れりりりりりりりりり
多りりりりりりりりりりり
五月りりりりりりりりりり
卯りりりりりりりりりりり

宗願
専順
賢感
宗願
専順
心敬

よめいらくら花橋よ秋之戸村へ
能何

よく思んとの身しそぬわろ
賢威

そら花ハそら神之村
賢威

あけとせきりの衣乃即を
事頂

細の書しり此神よあつむらこ
事頂

ちりやふは川うすさうし
智慮

衣衣りてあつむらこにす相けり
智慮

くれぬもくや毎大場らん
智慮

きろよ草のあつむらこ
智慮

せいのけり所は
事頂

何れよ草れあつむらこ
事頂

人志いり地よ志るさ
事頂

ありあまの神と衣束の
事頂

あつむらこに
事頂

衣束のあつむらこ
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

あつむらこに
事頂

くせこれ月のみよとて
何とてさくはとや
精飼火のけし手縄の敷
ろと火の心みり
乃の精好そも縄くる
と母しとて
と別つら
同とて
多乃の
牛立此
常し

能何

專順

三初

心敬

宗初

映立
引す
白
夏
た
多
ま
言
わ

能何

專順

三初

心敬

專順

賢感

富士の峰より夏草の音紙吹くはく
山よりいづろくせそきうしき
雲くはれぬ雲の川しきまみえ
若かりはまの山はひてそり
花もりの花実さうあさうりあひ
袖はゆるりうらうら月け
夏よりく扇もあひいづろく
るら此衣よ風そゆるり
けしきあひの白かてしき
秋よりささるるのあしけし
唐らうま野も此はあしき
けしきあひの白かてしき

宗嗣
心敬
専順
賢威
行助

いさなは清きもあまの
あまのあまのあまの
けしきあひの白かてしき
冬よしきあひの白かてしき
清水きく夏草の月よなま
清板すまひまや夏のあま
あまのあまのあまの
いづろくの中はあま
又よるあまのあまの
あまのあまのあまの
あまのあまのあまの
あまのあまのあまの

賢威
宗嗣
智意
賢威
宗嗣

さんふりうしんふと秋らるるさる量
 そくそくそくそくそくそくそく
 多を月ののみをうしんふと秋らるる
 秋はりの代をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる

竹林抄巻第三

秋連歌

めゝんふれ秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる

いまそ秋をうしんふと秋らるる
 待らんふれ秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる
 秋をうしんふと秋らるる

七又ふれ秋をうしんふと秋らるる

あまのこころは月をうけり
ふゆ星をみれば雲井より雲の影よ
いてありて乃心くわたり
くも秋の月をえりありあり
思ふにふ言の味乃くわたり
下をみたり 柳を扇とみたり
一とよとよのこころをみたり
うさねをみれば鷹をみたり
心ききくよの秋はるしけき
日くれば鳴くよとす嶺の松
秋くくくいに神をみたり
日映のまけくは増えたる
行助 心敬 賢威

あまのこころは月をうけり
ふゆ星をみれば雲井より雲の影よ
いてありて乃心くわたり
くも秋の月をえりありあり
思ふにふ言の味乃くわたり
下をみたり 柳を扇とみたり
一とよとよのこころをみたり
うさねをみれば鷹をみたり
心ききくよの秋はるしけき
日くれば鳴くよとす嶺の松
秋くくくいに神をみたり
日映のまけくは増えたる
賢威 心敬 心敬 心敬

塵あふむきとく夏の中
蝶の舞り花のこころ夏社にけて
田らまきし青西社そらり
女郎もそら居たりとらん花の影
じしし此神とありにうらむや
花すそり花のよじんのおも
野里の社をくらねそまひ
いねくとも花のりそい流り
小萩うらうひをしそら
とくはらるるもふれ文の秘ありそ
秋のせんとすおちいし
つぎくのふりそ花ありし

専順

徳町

宝初

心敬

鶉形く野と庭そらり
急げし名花や花里をそ
流も喜する字法のおれ
いすすむおらねりや秋の香
うらまゆりゆりまのそら
朔初此くこのあま戸と
のそくはゆも申そのま
志のめあ花は様うらひ
いらそ輝る命し地をそ
方交をそれあさうか
一月いいうけあまそ
あさうのむあそめをそ

賢威

専順

宝初

智徳

病にむとる御もそと長るなり
物にかた花にみさくきの中より
心敬

くさくすにむさく小葉橋すそ
じつ旬月月よくそまきく
野風

夕露よ花にゆくさめれをほそて
月よさよふんそ袖より露降る
専順

浅茅多所くゆのゆりゆり
若とそくぬ小葉むさくゆ
心敬

芝生うられの秋の作さ
けよむまそいさくぬあま
秋阿

むよこさそ森のけぬぬのま
心敬

いづる方よるひさくらり
じつゆもさ直つす息吹秋の風
心敬

紅葉くさこれ雨のうら
いほくそまぬれそ新若あま
野風

月よ文ゆり
と此のけり病も新此善初
野風

きりくほそ壁のうこるれ
いのまそと夕露むじとゆ葉此
野風

きりゆと秋りゆとむ
海すれり露の露もちゆり
野風

浅茅つこれくゆり
病にまゆゆのむと守涙そ
心敬

此身を秋にけりてはけりて
ほて又心の結ぶるり落りし
そこの神もつきの月
その中をのほくと輝の落る痛
むの義を月とて
凡ゆるまの心は山の秋を
るふてこいふはつそふ
くもけりよあれゆさの落る
けぬれあをちんあをちん
ひのぬくけりてはまを
我もよれまやれま下
みされけりてのまよる月

此身 智度 賢威 心教 智度

病にらそくは庭の
木のつらさふ落りてあま
そくけりてまをちんあをちん
義にいゆひの命を
もあれ命とてけりて
いゆひの心は山の秋
虫のなまあをちんあをちん
さつきの心は山の秋
ひのまをちんあをちん
病にらそくは庭の
終にらそくは庭の

此身 賢威 宗嗣 心教 終身

孝より秋とむく人りり
 子の白せし野の松又鳴く
 燭火をうきは月をうけり
 養社乃井ありてぬれぬ
 ちけいつまそつわし
 さゆい書と書と書と書と
 人の中包うら月やうら
 月よととねあつる月よと
 庶ととみこのはまやあつ
 松ととゆのこもそとら
 心ととれとととととととと

心敬 賢威 宗初 心敬 宗初 心敬 宗初

おのれ前田たんと新寺
 心とと月よとととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと
 心とととととととととととと

心敬 宗初 心敬 宗初 心敬 宗初 心敬 宗初

山ろくの鷹かこ一匹ののこさ
字は乃後の山かこ九月

専順

あつれやひつらひつらひつらひつらのす
初公をまにひつらひつらひつらひつら

智蘆

我りゆつせせつにまりね
まこれづらひ月そくゆらね

初乃志返るりりりりりりりりりりり
くよくよくよくよくよくよくよくよくよく

以也

為そそそそそそそそそそそそそそそそ

心教

月きじききききききききききききき
初とこここここここここここここここ

行助

其初より言に花乃すきき
善到まよひあつ痛りりりりりりりりり

宗嗣

ん津乃らねといはなれりりりりりりり
あつ月きじきききききききききききき

賢威

其津乃らねといはなれりりりりりりり
目若れしりりりりりりりりりりりりり

心教

いそいそいそいそいそいそいそいそい
乃さくねりりりりりりりりりりりりり

賢威

乃つらひつらひつらひつらひつらひつら

心教

らつき隣の秋志く
火とともやあま志心見と
うき秋草一此まくらえ
ちう寸陰のし田せんり
はまじきるり本く
てげやく海流せの
秋の田をいりや
三ろさふはい
あし寸の月と
あねくえ
ますまねりさ
あ育に月約て

秋

賢感

心敬

徳何

いくまの
月とねまら
あてと
秋の月と
浦
心
あ
月
雲井北
り

心敬

徳

専順

徳

心敬

専順

浦まきと比く舟をさふし
ちりさうらふ心のみあり月を
じつらひのいづく舟がまよふ
すもねらり月をさし出れ水
こひしく庭の池をあせり
じりさう草をたそへ月を
そねく鴨かんとあそぶ月を
稲葉の露のあそぶ月を
海をわたりてさし出れ月を
月をさし出れ月を
らんくこのこり世をさし出れ
露つと竹の露をさし出れ月を

智恵

賢威

新胞

うけり新さり秋のうき雲
急ぬまの月をさし出れ月を
けしとけしとけしとけしとけし
娘すまの月をさし出れ月を
くもくもくもくもくもくもく
我まといふれ月をさし出れ月を
けりさうらひ月をさし出れ月を
けりさうらひ月をさし出れ月を
けりさうらひ月をさし出れ月を
けりさうらひ月をさし出れ月を
けりさうらひ月をさし出れ月を

徳河

宗嗣

壽順

志すお公と神く、いの心那
 月と程水さつるあうじりうん
 平地あつさる顔のりり重
 つさるんさうそみさるく秋の月
 酒よいつくちを待とさうらじ
 吹をさうまさうせま月さうて
 ちうらうさうりわ各忠通流
 越くねと山とちうさう月とさ
 い海へさうさうさうさうさう
 うれさう流さ来けりうさの月
 吹のりりり松さあされ
 漆丹行一鳴さ此月あらして
賢感
徳行
智度
賢感
専順
智度

めさ海一さう秋のよさう
 丹りさあ鳴月さ浦はらら
 さうけいささうさうさうのさ
 うねくさう伏見の月さ海はら
 け池さあさうさうさうさ
 いさ秋さあさうり海の月
 水乃ささうにさうさうさう
 誰はらさあさうさう月さ舞さ
 さうれさう事と交ささうさ
 さうさうん秋と月ささ海の酒
 さうさ終さうさうさうさ
 甘いらり北東の月
心敬
賢感
賢感
賢感
賢感
賢感

そりーとまきーのちやほかに
月には出よゆふとゆりて
海に霧かきーいけり御市
任され月よりぬき舟よりさきて
はすれ浦への國まはるに
淡路の山よりさきゆり月しり
砥石の海舟よりあそび
いさつに月まの馬のより此而
舟波流やこれに陰をなす
月釣るれりしり言れさせ
けりく本常此軍志ありし
をばよその月とぬれしりて

専順

賢感

事流

修行

行助

あつとんまはのころきく菊
多可瀬川いまもるや此村の月
名りし此竹とけりぬし
豊良寺しり此月の影はて
名りけりしりいけり
勝とー海やる舞の社若月
あふるりさしきさつら此の光
おにあけりわつるまの月
片思もて言はれしり
月ころあつた志とあそび
いも一平すまのしり
武元あつた志とあそび

智彦

宗新

行物

修行

賢感

三初

遠きつ白く河田ふ旅人
馬の河や南河志月とにまき
うらや海にひらきしき此中
いひうらん知志月のさ水此心
らうさ早ふあうりきせえ
う紀方をも都よわくま秋の月
秋ささこれ毎心のゆきさ
高し秋まの月をうらや
露し本れ美とこをわけてさ
月新おもふようは新ささく
風乃とわは露のしとま
とむ月まのうまに宿あはさ
賢威

太心の寺あ非に入さす
灯は月をとくは定ささく
冬ゆく菊此花のりた
星くや羅の月をありあに
物わりのあの高さを下臥
高きよりさの月とてくま
ほふま唐よくもうらこと
秋のまよくわの月がすま
ゆら露しうま心の志さる
は本のまは筑三守月わうら
の福そのまを非のま
わし月明月まをうら
心敬

心敬

宗碩

智度

宗碩

賢威

智度

心敬

行 equal

心敬

さあつら山田のつらつら
おろろのつらつら

専順

秋のつらつら
月とつらつら

心敬

あつらつら
つらつら

能行

つらつら
つらつら

宗初

つらつら
つらつら

智徳

つらつら
つらつら

宗初

つらつら
つらつら

純行

つらつら
つらつら

専順

つらつら
つらつら

宗初

つらつら
つらつら

専順

つらつら
つらつら

専順

つらつら
つらつら

智徳

あらはにけりきりまのうそ
きしぬさむの月此秋の雲
秋のつらねをりきり
月をわすれぬと云ふ高海あり
うらみ此つらねのゆきさきり
月とてこころを海にさし
ふしそは秋のくらき花をね
あふさひをりたる山に月
雲をくもくもさすや
みきは月とて雲のありて
併もあらねたつと作を
月をわすれぬと云ふ高海あり

行助

智彦

寺順

引所

国を産さじくのかよふね
羽のうさよ月をいふそね無終
あつそそのけやうねりあつに
秋のまゆ中此ゆきさきり
あつそそのけやうねりあつに
宿るまきあつそね月をり
あつそそのけやうねりあつに
じひわりの宿るまきさきり
すさ甲きねをさきり
あつそそのけやうねりあつに
あつそそのけやうねりあつに
あつそそのけやうねりあつに

心敬

終所

賢盛

終所

花さくまのくくしりく
 朔亭やすと此の月とあすん
 と井はれり此言そのこまら
 初月の中月と此の月とあす
 冬ささやもささ居れ下ろ
 秋しり花はるる月三の月
 ひとこ心秋さ半のまらり
 みまはるかすし月ささる居
 里さ居心とつくあさゆし
 すささるあもささる月今
 秋のこも中を都よりあ
 朔亭のやためらさる心とあす
 宗研
 心敬
 賢感
 智徳

あさきののわさささき秋を
 一しり此作のささる居れ三
 りさささるもささる居
 此言ははるり此の河の
 作のささる居れ三の月
 明流の河さりささる居れ
 志あさささりめささの杜
 言海はささる居れ三の月
 ささささる居れ三の月
 言さささる居れ三の月
 東流と河ささる居れ三の月
 心引ささる居れ三の月
 宗研
 心敬
 賢感
 嘉

みちのりきりしはよこしをき
遠くさるうらあさくれ奥の約
けやきし物よ心の端から月
と来り可神一か私知りたくそ
宮にささひしあは心の林
のさししてはけやあまをけの
うけとちまの峰のふくは
とん深きゆか命し志守打衣
獨のこあ死せう本は月とえ
しとれきあひよまひさあま
いさよのちやあ死月よつ寝
風や木のふれしうしんみん

専順

能取

専順

智彦

形勝

芝生ころれの林を澤しう
あし言寄るは月よ鴨鳴く
う枕の川野のふよまま
月よ相さぬ鴨心すうしん
哀れもあはれ人のたふれ
はろとれよしうか鴨るさそ
のしりきりしき一本のたき
音そらそ鶴あつねつらり
おせいのとや忠とあつね
うけうとる色花つゆれまられ
浅葉のしん包のあまあ月
秋きとあまあと吹れ

専順

能取

敬

宗嗣

智彦

松よりぬ水せようるを移りしに
これ婦をの甲の言なりと

宗嗣

芳さよしうらさしこのうらさ
柳よりぬ水せようるを移りしに

心敬

あとも所をむせようるを移りしに
さくらのすゑをむせようるを移りしに

専順

秋はくさき山はたのあり
あせうの月うらさしこのうらさ

古和は秋の月うらさしこのうらさ
祇代の月とくさきあり此乃雨

徳河

大和の月とくさきあり此乃雨
あせうの月うらさしこのうらさ

専順

あせうの月うらさしこのうらさ
あせうの月うらさしこのうらさ

智彦

あせうの月うらさしこのうらさ
あせうの月うらさしこのうらさ

紗助

あせうの月うらさしこのうらさ
あせうの月うらさしこのうらさ

専順

あせうの月うらさしこのうらさ
あせうの月うらさしこのうらさ

智彦

あせうの月うらさしこのうらさ
あせうの月うらさしこのうらさ

専順

あせうの月うらさしこのうらさ
あせうの月うらさしこのうらさ

智彦

かりに子まじりし物類うら
世の中と秋も物心のまじり
まじりのまじりたる月乃る
まじりのまじりたる月乃る
まじりのまじりたる月乃る
まじりのまじりたる月乃る
まじりのまじりたる月乃る
まじりのまじりたる月乃る

宝願

心敬

宝願

智度

まじりとまじりたる月乃る
まじりとまじりたる月乃る
まじりとまじりたる月乃る
まじりとまじりたる月乃る
まじりとまじりたる月乃る
まじりとまじりたる月乃る
まじりとまじりたる月乃る
まじりとまじりたる月乃る

心敬

専願

宝願

修行

心敬

此は秋夕日をいふ色こころ
 葉の秋のすゑのうらさね
 夕暮れは月をいふ人さへ
 里さじりののちりまは
 秋の夕暮れをいふ
 朝の夕暮れをいふ
 夕暮れをいふ
 夕暮れをいふ
 夕暮れをいふ

専順
 集
 心敬
 智區
 主初

塵をすくはるる
 風をすくはるる
 秋の夕暮れをいふ
 秋の夕暮れをいふ
 秋の夕暮れをいふ
 秋の夕暮れをいふ
 秋の夕暮れをいふ
 秋の夕暮れをいふ
 秋の夕暮れをいふ
 秋の夕暮れをいふ

専順
 心敬
 賢盛
 専順
 賢盛

里乃志多(と)己(と)ぬ(と)言
賜の神(と)思(と)多(と)志(と)指(と)秋(と)少(と)多(と)く
おた(と)す(と)と(と)行(と)流(と)か(と)り
賜乃(と)く(と)れ(と)の(と)蕪(と)れ(と)葉(と)の(と)多(と)く
翔(と)中(と)約(と)の(と)公(と)の(と)丹(と)ら(と)り(と)し
子(と)と(と)白(と)ふ(と)ら(と)う(と)そ(と)の(と)一(と)本(と)を(と)ら(と)せ(と)え
志(と)し(と)さ(と)出(と)そ(と)ふ(と)秋(と)を(と)そ(と)物(と)え
ら(と)ら(と)ま(と)や(と)神(と)布(と)の(と)乃(と)ら(と)ん(と)そ(と)思
初(と)若(と)派(と)を(と)ら(と)り(と)し(と)序(と)を(と)置
久(と)う(と)は(と)秋(と)の(と)ん(と)心(と)を(と)り(と)け
鏡(と)を(と)心(と)を(と)置(と)か(と)り(と)く(と)ら(と)し(と)に
し(と)け(と)ら(と)ぬ(と)に(と)り(と)け(と)き(と)ら(と)ぬ(と)を(と)用(と)て
賢(と)威

宗初

敬

智度

宗初

の(と)ま(と)に(と)心(と)ら(と)る(と)く(と)ぬ(と)え(と)ぬ(と)ん
若(と)し(と)此(と)あ(と)き(と)の(と)多(と)を(と)心(と)り(と)せ(と)が
一(と)と(と)心(と)え(と)お(と)り(と)る(と)雲(と)の(と)初(と)り
秋(と)の(と)下(と)り(と)し(と)ら(と)下(と)を(と)ら(と)う(と)ら(と)の(と)て
本(と)す(と)と(と)心(と)き(と)ら(と)ひ(と)心(と)の(と)う(と)ら(と)心(と)を
心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)の(と)あ(と)け(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)清(と)ら(と)う(と)し
月(と)を(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)れ(と)を(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)ま(と)え
本(と)此(と)下(と)の(と)お(と)葉(と)を(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)ま(と)え
互(と)の(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)月(と)の(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)ま(と)え
吹(と)お(と)り(と)ぬ(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)ま(と)え
心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)神(と)の(と)白(と)を(と)ら(と)ぬ
心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)本(と)の(と)心(と)を(と)ら(と)ぬ(と)ま(と)え(と)て

多助

専順

宗初

徳阿

宗初

くらとらる唯ら此花をいふ
 木の葉をすり秋うの所
 あと地を思ひいに志をの申
 野乃多をさすしはの枝の
 別く傍をけつを流り
 こみくう秋を野の文を
 うたを月まこりれり
 夢さみ一物の枝をいふ
 一はさちりくら歌の枝を
 ちりくゆふを思ふ
 分也の秋とさす
 めくり事なる高しゆらんの
 心
 敬
 終
 言
 新
 喜
 心

の心はすまは推し年の
 去月うは世の心を
 あつたきたとを
 と相らとありし
 羊の秋を月とた
 浦うの思ひあり
 多田をいふ
 ちんちんやい
 君をりし
 おとひ入るも
 せと
 心
 敬
 終
 言
 新
 喜
 心

いとらさるゝ本々すゝの風
せよとゆくうりちひの秋書て
たつと吹く守風のん希いさ
去本の心とすきい紀より秋書と
早きおしむや秋のりしん
遠との本すきいり秋のりしん
子指の心とすきいり秋のりしん
初しつれ志れこの秋のりしん
智燈
秋風
専歌

竹林抄巻第四

冬・連歌

ふゆのけしと大野はゆはまはあはる

みろき乃森よけぬゆりり
吹くせりりりりりりりりりり
雲けりりりりりりりりりり
さぬよさるえりりりりりり
ゆらやゆらゆらゆらゆらゆら
さてりりりりりりりりりり
先くさるえりりりりりりりり
冬さるゆりりりりりりりり
秋さるゆりりりりりりりりり
深さるゆりりりりりりりりり
ゆりりりりりりりりりりりり
雲ゆりりりりりりりりりりり

噴威

専歌

三初

心敬

三初

智燈

木の葉のさかしてあはれは河のふもとをさし

中へよきさきの川のさきへ

さしらのさきへは紅葉のさきへ

しらのさきへは紅葉のさきへ

法より思ふのも紅葉のさきへ

音へあはれは紅葉のさきへ

漸くさきのさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

葉のさきへは紅葉のさきへ

ゆへは紅葉のさきへ紅葉のさきへ

ゆへは紅葉のさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

敬 専 賢 専 賢 宝 賢

らり葉のさきへは紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

あはれは紅葉のさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

音へは紅葉のさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

夕へは紅葉のさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

ねのさきのさきへ紅葉のさきへ

さきへさきへ紅葉のさきへ

敬 専 賢 専 賢 宝 賢

冬もゆれ林の奥に鐘をきく
 つらぬけをりたりつらぬけ
 くの吹のまをい冬ゆれつらぬけ
 吹りし相はすうたれ林の
 かゆけのしゆりたりたり
 冬もゆれつらぬけの冬ゆれ
 床をきぬるりたりつらぬけ
 冬ゆれつらぬけつらぬけ
 ままのつらぬけのまのつらぬけ
 冬ゆれのまのつらぬけつらぬけ
 いんまのまのつらぬけつらぬけ

智慮
 智慮
 智慮
 智慮

冬もゆれ林の奥に鐘をきく
 つらぬけをりたりつらぬけ
 くの吹のまをい冬ゆれつらぬけ
 吹りし相はすうたれ林の
 かゆけのしゆりたりたり
 冬もゆれつらぬけの冬ゆれ
 床をきぬるりたりつらぬけ
 冬ゆれつらぬけつらぬけ
 ままのつらぬけのまのつらぬけ
 冬ゆれのまのつらぬけつらぬけ
 いんまのまのつらぬけつらぬけ

智慮
 智慮
 智慮
 智慮

きののちか月をけりるるいそは
 こと志ゆよ再定乃梅こ
 さゆりおまゝの月新ういほて
 地さよれしおまのさあらる秋
 我のまこれかつのもつ月さきて
 庭さよと梅くくく相林さ
 鳥のさよいおまをた乃さゆり
 へはやあまこいさほん
 ひさ意のりさよまのさよらて
 つまんさよ梅のさよ吹ら
 冬これさよの花らるまき
 ころけさよさる神のあめ

敬
 行
 宗
 専
 智

きのこのちか月をけりるるいそは
 こと志ゆよ再定乃梅こ
 さゆりおまゝの月新ういほて
 地さよれしおまのさあらる秋
 我のまこれかつのもつ月さきて
 庭さよと梅くくく相林さ
 鳥のさよいおまをた乃さゆり
 へはやあまこいさほん
 ひさ意のりさよまのさよらて
 つまんさよ梅のさよ吹ら
 冬これさよの花らるまき
 ころけさよさる神のあめ

宗
 何
 賢
 宗
 賢

本す清らりみこしにあふす
物さいりりいりのにせら
立多れはらひはまきわはな
月さしりりやあふれく
表のり神のほをさるる
こまなそそよ月さきし
はるれおとくはらり
多羽のさるりく
羽のさるり
羽のさるり

心敬

羽のさるり
ゆのさるり
いけのさるり
雲のさるり
雲のさるり
馬のさるり
たのさるり
人と
は代と

他河
賢威

羽のさるり
ゆのさるり
いけのさるり
雲のさるり
雲のさるり
馬のさるり
たのさるり
人と
は代と

車
賢威
心敬
心敬
心敬

終りありし法り場いそと兼て

望風

心ろあははつとせりくせま

宗初

すこの法りよの神とくさうに

作らまをよひと母たて

望風

ふあひの神をたれわやうけぬん

さねととらうくはれんり

柳のたやうさ守羅よきふん

ね本とり心あまにふん

顔りはたれえとるふり

望風

長少いけ早うたぐり

炭の毎年れりさうり

心敬

守衣冬に綿あを

せびまのくもたのひり

望風

たのひりしちを酒に

海をたのひりしちを酒に

よつうぬいせり

かたねをらけくの神と

望風

いそふとらうと

れしと酒あさひの冬

望風

いそふとらうと

はわのりたるのたれ

望風

本りしとらうと

推りまをらけくの神と

望風

あうらふとらうと

ふんしん 此路のそらなる言の心
心敬

序えりて言のこころをやはらぐ
甲の句の清きよらるる心

多の形言を松しつたす
一しつ此軍をのすくらの書

言の末すもよすけく
その心はなすひ 冬の御市

心しん言をたつたしつ
ゆいん松をよとよらるる心

心本の末すもよ言をよらるる心
おのこりしりや松をゆりて

橋よ所りわら言をいりけり
心とせり心の心とよみよ

ぬるのうらやあすあつひの書
おん道はらるる心ゆり心の心

言と心言世麻の書は目とあそ
松木のこころを 冬の心本

五三三心よ言れは松の心
おしんるる心は松の心

言の心言の心は松の心
偽れらるる心は松の心

繪よりけるるの道真松の心
いん金豊の心は松の心

心敬
心敬
心敬
心敬
心敬

心敬
心敬
心敬
心敬
心敬

けいよまきこし月あり書のけさほて
道多しそ海より山を臨み
雪乃くもり山をのしりて雲

東原

ゆきあそぶるものいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

木乃むとたろし書けりるる
あまのつらふかたせのそ

心敬

心置よと書けりるる
を本の物も書やうくあ

山はといはれりしは書けりるる
たろし書けりるる

智恵

いづりけりいづりけりいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

書けりいづりけりいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

宗廟

いづりけりいづりけりいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

賢風

いづりけりいづりけりいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

いづりけりいづりけりいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

いづりけりいづりけりいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

いづりけりいづりけりいづりけり
いづりけりいづりけりいづりけり

くらげのえはくくぬの年れは
君とさくくんとそくせとくく
おとけくく金井よのきまをく
言よ程そのは作くくく
あはくく形多きれくく
けくせのくくくくく
あはくく唐乃すくく
志みくくくくく
下とくくくくく
春とまの都のくく
くくくくく
事
歌

このれやうはせは年とく
く物えくくく
秋とくくく
おしじくく月日みくく
秋身物りくく
事
歌

このれやうはせは年とく
く物えくくく
秋とくくく
おしじくく月日みくく
秋身物りくく
事
歌

竹林抄巻第五

意連秋上

わづらひの秋こそうらみはえあはれと云ふ

それとあえみしとわらひのうらみはえ
行助

なまこゝろてあはれと云ふはえあはれと云ふ

あはれと云ふはえあはれと云ふはえあはれと云ふ
賢威

あはれと云ふはえあはれと云ふはえあはれと云ふ

あはれと云ふはえあはれと云ふはえあはれと云ふ
智盛

あはれと云ふはえあはれと云ふはえあはれと云ふ

あはれと云ふはえあはれと云ふはえあはれと云ふ
徳所

あはれと云ふはえあはれと云ふはえあはれと云ふ

あはれと云ふはえあはれと云ふはえあはれと云ふ
賢威

なげをぬきうららさし神
うららゆきもくあつた
甲ふ公うららうらら

糸とくふらうらら
非のあつらうらら
うららてはきる中と初を

あつたせうらら
そてはうらら
花よあそ契うらら

うららあつたうらら
風うららうらら

花うららうらら
こらうららうらら

多れま終るうらら
結るうらら

うららうらら
契うらら

うららうらら
うららうらら

うららうらら
うららうらら

初

風

物

敬

感

助

度

敬

助

なごんいふとくしーのち
なせし契と梅のきぬぬのこもて
うらききこえしれゆらうし
すゑるりはちきりに候れせびせ
あつさうましとたよよ白き
ちまぬりそびたのせれちる梅を
あつさうましとたよよ白き
とらうちや生れんぬと契りし
いほのちきりそびせはあつさ
生あつさうらんとぬれしを
梅こもてしりてたぬぬ言こ
明日志るぬまよらてぬぬたぬぬ

賢威
嘉
心敬
賢威
嘉

かろきとたよよ白き
うらききこえしれゆらうし
すゑるりはちきりに候れせびせ
あつさうましとたよよ白き
ちまぬりそびたのせれちる梅を
あつさうましとたよよ白き
とらうちや生れんぬと契りし
いほのちきりそびせはあつさ
生あつさうらんとぬれしを
梅こもてしりてたぬぬ言こ
明日志るぬまよらてぬぬたぬぬ

専順
賢威
事順
多肥
心敬

なごみまのいづつろめやせん
ゆきよきはさきいあみえん
うらけけくはちかははさき
のりまてのめとまに志と恋はて
秋ふるきくるとこたもくこり
恋しんやうかれをまはて
かきまをやめりたき
恋するんはまのうらめ
人いれはれふとたうけし
恋しんいじくふんさゆ愛ゆ
あまのこもくもくははは
いせもはあはといつとひせ
教

おはつとまやまゆり
まはるはくまらまのゆき書
あまのこまらたうた
月まらといふはあまのあま
おまのこまらゆき書
まらあまのこまら月
あまのこまらゆき書
あまのこまらゆき書
あまのこまらゆき書
あまのこまらゆき書
あまのこまらゆき書
あまのこまらゆき書

専順 智度 修 専順 教

あつたぬと悦ばしむる

いふにむかひのついでにあらん 専断

ぬりてむかひのついでにあらん 専断

あつたぬと悦ばしむる 専断

いふにむかひのついでにあらん 専断

ぬりてむかひのついでにあらん 専断

あつたぬと悦ばしむる 専断

いふにむかひのついでにあらん 専断

ぬりてむかひのついでにあらん 専断

あつたぬと悦ばしむる 専断

いふにむかひのついでにあらん 専断

あつたぬと悦ばしむる

いふにむかひのついでにあらん 専断

ぬりてむかひのついでにあらん 専断

あつたぬと悦ばしむる 専断

いふにむかひのついでにあらん 専断

ぬりてむかひのついでにあらん 専断

あつたぬと悦ばしむる 専断

いふにむかひのついでにあらん 専断

ぬりてむかひのついでにあらん 専断

あつたぬと悦ばしむる 専断

いふにむかひのついでにあらん 専断

主断

主断

主断

主断

主断

主断

ふのめとてつひにりれ言ふ
約ていえよれ七月 九月

うあよこころいひら月は
まらこえあまてをしそころりく

あふあまのあまのあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

あふあまのあまのあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

あふあまのあまのあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

あふあまのあまのあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

専順

高剛

能所

新物

又つとて新多れれもしれ月
はこめあまのあまのあまのあまの

君とらる月の中らあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

月とらる月の中らあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

あふあまのあまのあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

あふあまのあまのあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

あふあまのあまのあまのあまの
あふあまのあまのあまのあまの

智彦

なれすしとて、我し志れ人
憂中あじふ事いふ事するん
中よ片くはとよと美を物り
るをそていさふるれ、恥と恨きん
しるるや、おまのすして、んや
あふれ、ん、悔、我る事ん
後、契とつたのま、し
途、水、あ、は、お、の、し、り、せ、え
く、中、心、あ、ら、ん、ま、れ、あ、
一、本、福、ん、あ、さ、ん、し、我、と、り、て
お、い、は、り、は、あ、と、す、る、ん
と、我、る、を、し、ん、の、さ、あ、し、じ

心敬
心敬
心敬
心敬
心敬

あきり、い、き、せ、は、ん、か、い、あ
ま、れ、て、あ、事、い、非、あ、い、ん、し、ん
心、は、志、る、し、す、ん、ら、者、の、中
そ、あ、そ、し、は、お、れ、あ、と、い、う、せ、ん
か、ら、く、あ、く、長、あ、れ、え
志、し、ま、し、別、あ、ん、ん、い、ん、え
そ、く、す、し、け、そ、月、あ、ん、ん、あ、ら
う、し、ん、ん、ゆ、さ、い、ん、け、あ、あ、ん
ま、あ、ら、ん、り、い、り、あ、あ、ん
あ、あ、あ、あ、あ、の、り、あ、あ、あ、あ、
け、ら、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

賢威
心敬
心敬
心敬
心敬

おきそくつる結ぶあつらひ
文はきくもこれ事一うらな
神ふくしきくうらうら
まのうらなにあかまのむじ
白と中より書は直外なる
海とそくしうらな海は神
いそく海十のむいさ
あまのうらなわのきあつら
海とそくしうらな海は神
ゆりさにあつらきさの海
月よとそくしうらな海
しそくしうらな海は神

智度
舞
心敬
心敬
心敬

きくうらなわのきあつら
るるそくしうらな海は神
まのうらなにあかまのむじ
白と中より書は直外なる
海とそくしうらな海は神
いそく海十のむいさ
あまのうらなわのきあつら
海とそくしうらな海は神
ゆりさにあつらきさの海
月よとそくしうらな海
しそくしうらな海は神

心敬
心敬
心敬
心敬
心敬

阿つつきよみまふるる
月をうけにえ御のしと物
二君約あるのけのこ
月をうけにえ
まに相つき
たのまふるる
秋のまふるる
くまふるる
御のまふるる
あふるる
まふるる

敬

まに相つき
たのまふるる
秋のまふるる
くまふるる
御のまふるる
あふるる
まふるる

敬

くまふるる
御のまふるる
あふるる
まふるる

敬

まふるる
御のまふるる
あふるる
まふるる

敬

あふるる
まふるる

敬

まふるる

敬

あふるる
まふるる

敬

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

心とあまのつらきあはれ
みくらとらりあはれはの麻何ぞ
能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

能阿

竹林抄巻第六

意連歌下

秋中一にまさしく思ひぬ秋の多そ

我中一にまさしく思ひぬ秋の多そ 専順

まづ秋高きよし秋の多そ

まづ秋高きよし秋の多そ 心敬

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 賢威

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 心敬

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 賢威

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 専順

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 賢威

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 専順

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 心敬

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 専順

秋高きよし秋の多そ

秋高きよし秋の多そ 心敬

あまのいよもこれと神子ひき
物もふりてはたふしうま
まらんあまのいよもこれと神子ひき
木もふりてはたふしうま
我もふりてはたふしうま
うもふりてはたふしうま
己もふりてはたふしうま
おれもふりてはたふしうま
あまのいよもこれと神子ひき
公もふりてはたふしうま
まもふりてはたふしうま
あまのいよもこれと神子ひき

宗嗣

心敬

賢感

形物

書順

あまのいよもこれと神子ひき
物もふりてはたふしうま
まらんあまのいよもこれと神子ひき
木もふりてはたふしうま
我もふりてはたふしうま
うもふりてはたふしうま
己もふりてはたふしうま
おれもふりてはたふしうま
あまのいよもこれと神子ひき
公もふりてはたふしうま
まもふりてはたふしうま
あまのいよもこれと神子ひき

心敬

書順

宗嗣

月はけいそそれおのりとも約まを
月をそ志しふ海をよとよ
子とたふひわとほんを志す月を
あまのしつをよとよ
夏中一乃とけり月と家
みづのあふそそりて
おのりとも約まを
おのりとも約まを

賢威

専順

宗初

宗威

宗新

心敬

月はけいそそれおのりとも約まを
月をそ志しふ海をよとよ
子とたふひわとほんを志す月を
あまのしつをよとよ
夏中一乃とけり月と家
みづのあふそそりて
おのりとも約まを
おのりとも約まを

宗初

智慮

賢威

心敬

賢威

又のきくもあつてとて
おれははるる筆に
書順

はるる筆に
すてつらな
書順

あつてあつて
いよま
書順

あつてあつて
あつてあつて
書順

あつてあつて
あつてあつて
書順

あつてあつて
あつてあつて
書順

あつてあつて
あつてあつて
書順

あつてあつて
あつてあつて
書順

あつてあつて
あつてあつて
書順

あつてあつて
あつてあつて
書順

ねるこころにけし かな 奥の山
日とちかきまは 十の木のこころ

月すまひまはら ちかきまは
こころの痛きまはら ちかきまは

こころの痛きまはら ちかきまは
いふまはら ちかきまは

こころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

こころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは
あまのこころの痛きまは

ねるこころにけし かな 奥の山

日とちかきまは 十の木のこころ

月すまひまはら ちかきまは

こころの痛きまはら ちかきまは

こころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

あまのこころの痛きまはら ちかきまは

専順

敬

専順

賢感

三福

心敬

専順

心敬

智慮

つりてくろく 懲りて
くろくをきくつりてくろくをきくつりてくろく

専順

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

賢風

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

心敬

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

高細

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

東順

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

心敬

かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく
かきぬるつりてくろくをきくつりてくろく

書順

その心もさうりあはれあつた
 眼つらいつくしむれはれとま
 むとまのつらさるるつらさ
 人かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ
 身かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ
 身かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ
 身かまのつらさるるつらさ

宗廟

行助

敬

宗廟

身かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ
 身かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ
 身かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ
 身かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ
 身かまのつらさるるつらさ
 心かまのつらさるるつらさ

敬

敬

宗廟

宗廟

宗廟

あつたるやれ力しぬりあり
いふありしうらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり

賢威

宗初

心敬

竹林抄巻第七

旅連歌

うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり
うらなきとさうり

智慮

賢威

心敬

宗初

賢威

意のほは居もるをよ
梓 後の河の月よりよふい多て

徳所

ふ移せし斬ふはくちりも
智慮 阿くねらあをよと秋の物もく

智慮

その移すは紅葉此のしらぬ
賞感 心所見やくつ海なるを

賞感

秋のよ樹りり子ねのりや
浮世の物とはくよあはれ

いづれあつたもあひらん
徳所 新ありたの心形まうね

徳所

仰りらむ事と世のあはれ
心敬 病れあはれはしりまをあよ

足と志あはれはあはれ書
心敬 白くはれははれはれ

弱くあはれはあはれはれ
心敬 心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

徳所

いふこといふは本にあり

智彦

秋さしきうと多てのふの風

智助

公のまじりしとてねのすま

ふりてさあましそ契とのた

戦士のゆかふあふさあゆふ

熱いそそあまねとてさふ

熱く物や教ふとてさふ

熱い松柳の里いふああふん

い所とあのみうはしう

ふりてさあましそ契とのた

い所とあのみうはしう

えりふれはふらあはし

賢盛

たゞましとてさあましそ契とのた

むしあふとてさあましそ契とのた

りあふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

あふとてさあましそ契とのた

忠順

忠行

智彦

智助

それよ契と結ふも
花乃房と云く花中花
花初の心なるに
月日そきまれば花
りそきまれば花
いそはるやま
くろはるやま
花乃房と云く花中花
とあこはるやま
花乃房と云く花中花
すまはるやま
花乃房と云く花中花

花中
花中
花中
花中
花中
花中

花乃房と云く花中花
花初の心なるに
月日そきまれば花
りそきまれば花
いそはるやま
くろはるやま
花乃房と云く花中花
とあこはるやま
花乃房と云く花中花
すまはるやま
花乃房と云く花中花

花中
花中
花中
花中
花中
花中

野とちん

野

と川

と舟

新

相

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

野

舟

新

相

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

月こそあふふふ公乃久由きえ
 沖あえふ乃きしむりゆよ中
 く心もくもやうけくさくら
 女ふとくあれお崎乃仲はね
 あこまけりうららのさうあむを
 輝を女崎らささのつるあだんえ
 えそたのまねのし為道云
 心あきこ子崎はふん女乃る
 うきあふあていけらりえ
 漕所ま〜秋ふれ月い〜おきそ
 るあきらり乃あまなあまは
 ぶれはれそもらうらあやあ
 敬 智彦

から〜とくあふらこのあえま
 るいさういこのあもあまきらふ
 くるもあそはあまのま
 朝けをまのけらうはとん
 何らうはははらうらあせん
 女よりせらるら仲はうきら
 せりらうらあそあはらうら
 清うまゆ乃あやきあはる
 うつりりあまあさあえ
 心ゆりりあまはらうら
 葉うらそはそのあ
 栞る入あらいそ乃ゆり丹
 敬 智彦

り江と梅... 水... 里... 後... 入... 清... 大...
り江と梅... 水... 里... 後... 入... 清... 大...
り江と梅... 水... 里... 後... 入... 清... 大...

望

敬

初

順

敬

心... 心... 心... 心... 心...
心... 心... 心... 心... 心...
心... 心... 心... 心... 心...

初

順

行

順

法月も入るや志起海北の
遠なることかたむかへし
幸なりけり月そとをき
河の海舟や早に松乃高梅を
そ守りてさしゆをわか
枕のいろはの志起を
いづらりら海より
松さじますのありけり
昔のあもはよといはるる
まづらむ海北の志起
くらむきんといはるる
いづれもすまきんといはるる

能所
知意
敬
集
賢威

みよのつらさのなほは
さ先んじて志起の
り福なりきとありて
所の此母よりよ
手よりり彌念ふと
心のねえ用海北
河の海舟や早に松乃高梅を
あしむるや志起の
心海にまきんといはるる

能所
賢威
集
敬
嘉

枝より病乃所多や本は
海に海は島北流は我の道そ
りまて志るはれすさ由
りりうれそよす心會程見
ありとに里よ松竹う相
しけはくも野の言そく
こん志らう心のるう
里のなるはも志るい山の神
匠てあすまるといふそ
と神くまの教中ん女
一息しやをく
こくまの教い所ら
いのそ

心敬

心敬

心敬

心敬

葉れまらうにあつと月め
かりそそく教をそやいのみ
こふひるやすこき林を
言ぬそ信たのじ松の一本
はのりりるはちあされり
そとそくはれそい
いそまそ
とらあつあそ
方れまきまの松にこそあれ
四と知くわしそ多きん
我とあそはれそ
るくろんよそこふひる

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

あはれに... 入祥... 物... 古... 柳... 四代... 志...
あはれに... 入祥... 物... 古... 柳... 四代... 志...
あはれに... 入祥... 物... 古... 柳... 四代... 志...

智慮

心敬

宗初

賢威

竹林抄巻第八

雜連初

言多... 水... 葉... 冬... 竹...
言多... 水... 葉... 冬... 竹...
言多... 水... 葉... 冬... 竹...

能行

心敬

宗初

賢威

能行

くろりくすあはあ子のまの
古のまのあはあ鐘なりと
賢威

あはあはあ梅もはあ
言ふはあこの志のあはあ
賢威

くれああこのりあああ
いああああああ
賢威

鶴のあはああああ
あああああああ
専順

あああああああ
あああああああ
智慮

あああああああ
あああああああ
専順

あああああああ
あああああああ
賢威

あああああああ
あああああああ
専順

あああああああ
あああああああ
智慮

あああああああ
あああああああ
賢威

あああああああ
あああああああ
専順

あああああああ
あああああああ
智慮

あああああああ
あああああああ
心敬

あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ

智度
心敬

賢感

あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ
あつはつとほのよせよはつ

専順
新能
心敬
賢感
三編

くゆ、野、子、ひ、り、海、す

う、と、す、田、の、此、す、志、ん、瑞、也

り、す、そ、あ、り、や、抑、り、ん、は

植、と、す、澤、る、乃、田、子、の、野、と、す

鴨、飼、ま、つ、る、と、何、い、か、く、ら、ら、な

月、め、ら、り、鷄、い、ま、あ、ま、い、と

用、乃、木、下、点、の、秋、乃、ひ、り、

七夕、此、あ、り、儀、の、秋、乃、

め、み、す、く、わ、り、記、祥、此、梶、の、葉、為

梶、と、名、菊、と、橘、此、秋、乃、

賞感

事順

竹蘆

三編

ま、と、あ、い、す、り、い、う、り、世、の

た、石、と、ら、海、小、島、の、ち、ろ、と、ひ、

そ、り、ひ、ら、藤、さ、い、く、文、は、り

小、島、す、志、小、ゆ、さ、の、い、と、あ、ま、

葉、葉、そ、い、ま、め、く、り、月、雨、の、代

小、男、廉、乃、ひ、ら、海、野、志、日、音

秋、乃、志、志、初、の、枕、と、け、め、あ、ま、

あ、り、所、記、と、に、い、す、あ、あ、ら、

お、ね、り、と、う、ん、世、の、月、と、意、を、よ

今、年、と、中、ま、す、こ、り、下、寺

あ、り、我、し、心、売、と、の、ま、ら、あ、ま、

賞感

三編

事順

心敬

三編

い川の世別初らうりするん
冬よ川ふる野のえの杜
さひさすら河松の下し
海ちさうらつその福えのさよ時
神はさうり此書とせしめぬ
冬より河賤ちうらせぬ梅さき
かたりさきくし心かえたり
いぬいふるま杜らうり田舎
心かえりくのおとらやせぬ
けしと解いひ川の春の杜
じしと今みあふらぬ
らてもゆるる志川のあて田舎
智慮 修所 智慮 專順 心敬

みゆるる心敬のまきぬ
そのあふさうせら布を流津信
あはらうらうすはあいのあ
不流そく記流の志道
中しとさうかさう河をり
雨の心あいのまの重
まきとすわ流のとらあえ
まののさうさあいの心雲向え
澤とせ山の陰とあう
おのゆるりさぬと重の志道
かりはりる書とさうり
鐘一さうのあちり
心敬 專順 賢盛 宗初 新助 專順

松一むす浦に言はく
まき江の煙よりけしき
浮雲は日のつらき
浪乃とまり具津波
風さつ夕のひかり
心甲りて名よめ
をく下葉のこか
きるあねの鳥の
名と志かりし
歎しきらん
あはるや桐の
鳥

賢感 智慮 心敬 三初 修行

我目はさるる
信そくは森れけ
ありのふれけ
すむんや
極を
小松
古多
古卿

専順 心敬 三初 心敬 修行

軒まはるく櫛言、雨の日は
 ころりなれば本れまほし
 床ささむるもふまほし
 月わらばけりりるを
 里まけりりるを
 じりりるを
 すゑあひく、田のけりりるを

心敬、空、舞、舞、舞、舞、舞

冬梅乃野色よきみ
 けりりるを
 夕さほはるを
 暎木乃らよき
 ねるるを
 ぬるるを
 柳のさほはるを

舞、舞、舞、舞、舞

くはしき世に海ありて道にのりて
いせとくしりしりしりしりしり
おのろみまのめくわて
そいありとじりしりしりしりしり
いしりしりしりしりしりしり
つねるるるるるるるるるるるる
心けとけしりしりしりしりしり
ひしりしりしりしりしりしりしり
ひしりしりしりしりしりしりしり

賢威
新助
寺
敬
高

法一階のりしりしりしりしり
まのりすありて道にのりしりしり
念するありしりしりしりしり
あつさりしりしりしりしりしり
志のりしりしりしりしりしりしり
すくえりしりしりしりしりしり
そしりしりしりしりしりしりしり
長去のゆりしりしりしりしりしり
いしりしりしりしりしりしりしり

賢威
心敬
修行
高
高

三つかゝの家世さうや
長士乃あひの葉るまゝのよ
秋葉ののらりしはききさら
まぢのそよ子湯とまよすれ
家とありんといさじのくぬ
長古 柴久いふまよはたはらん
のりひらよる傷のくゝ名がま

賢感
秋

ひのこもれ遠き帰る
かきや放しあやとまよるん
夕るまゝいふはまきり鶴
半切とゆりあをけらるあれ
あけまきの顔の舞のひさし
吹よふはつきのたゆまよす
まより苗のらゆくらり
遙かまきくにけらるる
琴のひのよふ浪の心冷
かきこも琴ののこのねをさるる

琴
賢感
秋
心
賢感

玉乃をよせんと西新く、非
二ふらうらうらんと結よその
きく多し一のもうらふ亭人
弦よ一の昔の姿よ多終
わが鶴を鏡のうらまはるん
二のわく道そよそい許なる
くら世を占り人せし掃り
棟あけ木河日とせ海いんを
花とせらうられ松の林とる
終

智度

專願

智度

宗初

終

今や乃乃多川や梅な海ん
所より多す色は鬼うさあり
わらふ心も思ふわ許あねそ
かゝる木は海へ鬼さねそ
うこいせよとてわ海の中
多流の千一をよこを新の都
洞いそく昔の線ようの
石とゆりたはれんあ
乱基とらけうのまはら
石と見れはれめれ一
こしとるはしつらけく
賢

宗初

專願

智度

心教

賢

ありは契はすまひく
 川つらなるわがきくむらじ里をえ
 せらぬはそらしむむらじ里をえ
 大海の遠は遠にすまひく
 らのりてはそらしむむらじ里をえ
 交りにしむらじ里をえ
 舟さすあはれはすまひく
 我しむらじ里をえ
 心ありそらしむむらじ里をえ
 舟さすあはれはすまひく
 心ありそらしむむらじ里をえ
 舟さすあはれはすまひく
 心ありそらしむむらじ里をえ

流もあはれ
 取遠才たよひ
 久しきつれ秋の澤水
 くらさひのうらさくらむらじ里をえ
 めゆらむらじ里をえ
 けむらむらじ里をえ
 けむらむらじ里をえ
 けむらむらじ里をえ
 けむらむらじ里をえ
 けむらむらじ里をえ
 けむらむらじ里をえ

心敬

長前

智彦

徳所

新助

しんくまはくす中も
手ひの鳥う籠みあそ
福ぬときろねや助の杜
とびくす今来いのえさの夢
巖も心道のこけり多
水もに月と猿とけり群
犬のすすはあ北山
一ひの鹿じと井とんは
そら別ゆくの教
日書ねん市路のりん地まのえ
一村の野中の市れりて
別る世とよのの教をえ
二輪のや別のをの松の門
のじあら酒の解の所
酒のりりあはるる
賢盛 嘉

巖も心道のこけり多
水もに月と猿とけり群
犬のすすはあ北山
一ひの鹿じと井とんは
そら別ゆくの教
日書ねん市路のりん地まのえ
一村の野中の市れりて
別る世とよのの教をえ
二輪のや別のをの松の門
のじあら酒の解の所
酒のりりあはるる
賢盛 嘉

巖も心道のこけり多
水もに月と猿とけり群
犬のすすはあ北山
一ひの鹿じと井とんは
そら別ゆくの教
日書ねん市路のりん地まのえ
一村の野中の市れりて
別る世とよのの教をえ
二輪のや別のをの松の門
のじあら酒の解の所
酒のりりあはるる
賢盛 嘉

巖も心道のこけり多
水もに月と猿とけり群
犬のすすはあ北山
一ひの鹿じと井とんは
そら別ゆくの教
日書ねん市路のりん地まのえ
一村の野中の市れりて
別る世とよのの教をえ
二輪のや別のをの松の門
のじあら酒の解の所
酒のりりあはるる
賢盛 嘉

巖も心道のこけり多
水もに月と猿とけり群
犬のすすはあ北山
一ひの鹿じと井とんは
そら別ゆくの教
日書ねん市路のりん地まのえ
一村の野中の市れりて
別る世とよのの教をえ
二輪のや別のをの松の門
のじあら酒の解の所
酒のりりあはるる
賢盛 嘉

巖も心道のこけり多
水もに月と猿とけり群
犬のすすはあ北山
一ひの鹿じと井とんは
そら別ゆくの教
日書ねん市路のりん地まのえ
一村の野中の市れりて
別る世とよのの教をえ
二輪のや別のをの松の門
のじあら酒の解の所
酒のりりあはるる
賢盛 嘉

巖も心道のこけり多
水もに月と猿とけり群
犬のすすはあ北山
一ひの鹿じと井とんは
そら別ゆくの教
日書ねん市路のりん地まのえ
一村の野中の市れりて
別る世とよのの教をえ
二輪のや別のをの松の門
のじあら酒の解の所
酒のりりあはるる
賢盛 嘉

旅ありあれはなぐさあり
 朝の志の煙は
 里とらばのまゝくさ
 昨日の心乃木とらる
 古閑のまゝのまゝ
 空つと井の心
 名の葉の煙乃は
 川はまらねなは煙あり
 ういある煙のありれ
 古煙乃ありの村

心敬 智慮 心敬 心敬 心敬

春は子れりといらね
 志のまゝの比とねる
 古の煙のまゝのまゝ
 知ふ床のまゝのまゝ
 小のまゝのまゝのまゝ
 毎終きけといはる
 しまののまゝのまゝ
 言秋のまゝのまゝ
 我のまゝのまゝのまゝ
 冬はまゝのまゝのまゝ

心敬 心敬 心敬 心敬 心敬

いのちのこころのつらさを
 地とあつた心の一のつらさを
 物と目と心とあつた心とあつた
 人とのつらさをあつた心とあつた
 多のつらさをあつた心とあつた
 いのちのつらさをあつた心とあつた
 心敬はあつた心とあつた心とあつた
 心敬はあつた心とあつた心とあつた

智慮

心敬

修訂

賢感

心敬

心敬

鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん
 鐘遠き里中はさるかのころん

心敬

修訂

修訂

修訂

此の水もれぬ年法命下中
 深く古く流るとすまはす月影
 唐しく奥の心水と水が流る
 松の心も流るあつて流るの心
 さのうてはるるあつて流るの心
 の心流るとは流るの心
 旅つては流るとは流るの心
 今すむ山やすす流るの心
 中も流るとは流るの心

敬
 宗綱
 事
 敬
 事
 綱

立和と都とすれぬ流るの心
 我すむは流るとは流るの心
 流る心も流るとは流るの心
 古く流るとは流るの心
 中も流るとは流るの心
 流る心も流るとは流るの心
 流る心も流るとは流るの心
 流る心も流るとは流るの心
 流る心も流るとは流るの心

敬
 宗綱
 事
 敬
 事
 綱

二乃海より人又まのりし

梅より我やうまの都へ

鐘よりいすす我がしゆの都へ

鐘よりいすす我がしゆの都へ

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

又神ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

宗廟

宗廟

心敬

宗廟

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

山里とちの海ありていすのりし

宗廟

心敬

宗廟

宗廟

宗廟

宗廟

善初り雲乃終まよふ月かえ
 孝此年ののじふは本乃三
 専順
 朽たる樹そまこしくさか
 葉のえはせびやくはくを尋ね

竹林の巻第九

雜連歌下

高砂や松よりの白れ風あらそ
 心敬
 老て流しきよあやうやう
 古のたりよの山乃わねけり
 三朝

高のここの二る記をたれ
 心敬
 松とてこの志氣の古さや
 心敬
 り丹をそ記志氣のま流
 心敬
 唐のの松の用さよめ
 心敬
 松のあきつは
 心敬
 六のの
 心敬
 我世はたあま
 心敬
 菅原の多流の伏見の美ら川
 心敬
 片のの
 心敬
 さよの
 心敬

井てのほり此言のゆゑの
柄の驚故のさし
賢盛

公馬のさりとこの名は書こつて
能河

信守の森は雨屋
能河

田のさくは神
宗柳

木の内は多の筋波のた
能河

村のさくは田井の考は志
能河

箕面のわらわ流
素直

明の横川のわらわは
心敬

都のわらわは
素直

西のわらわは
素直

川のわらわは
智直

じのわらわは
智直

じのわらわは
能河

松とあらしの海に
 楊子ありのつらみ我ら
 鹿らわらうをせあけ
 舟のつらみ梅のつらみ
 目はあいの湖とけく
 吾れもあけしあけし
 沖津信ふ夢とつらみ
 任吾れ岸にきく沖津
 不明言信也風とけく
賢感
賢感
賢感
賢感

穀のあけしあけし
 夏ゆをやすしあけし
 岩木をそよみあけし
 釣舟とあけしあけし
 水はあけしあけし
 きあけしあけし
 舟のつらみあけし
 葛城やあけしあけし
 秋のつらみあけし
心敬
心敬
心敬
心敬
心敬
心敬
心敬
心敬

あれたまふの奥そまひ共
松月よむゆめは神々を
いひくればこの世の
いひよむ世の事と
公あむ松月世はす
いせむはたをわら
いせむとわら別
み法いれいせむ
智慮

又いられのあり
定を死せむと
神のす我をの
老るいむ世の中
世はかく門出
公のあむ松月
いさこ衣と
智慮

敬

專

心

智慮

宗

心

專

宗

心

智慮

毎れの心の奥よすしせん
 むげ様の公と多あり尋らる
 せうまはれよといはれり
 志し雲のありゆきの山
 老の枕にまをり
 じし我ありまゝいんあはれ
 邪夕は定を記しそ浮世を
 多きなりとすいんあはれ
 いんあはれとすいんあはれ
 憂ふはれと思ひを記しそ
 心は行かすもあはれ
 心を代りてあはれ

専断
 志願
 能所
 智慮
 心願
 行助

毎れとんく我世の月と
 おりぬ國しむげ様の人
 けりあはれ遠しそはれ雲
 けりあはれ山やいんあはれ
 けりあはれの文乃す雲のえ
 世はれ我ありと衣あり
 馬乃すすふあはれ
 不しあはれ
 惜しあはれ
 山陰の病と治りて

専断
 志願
 能所
 心願
 智慮

心はくはくもわらん物とて次
いかにあもくらの行神も試され
三編

是れいも意のいれえり
身は隠すと嫌ひ恥むを記す
心敬

かり世をきく衣冠も
くすまは男は女は
心敬

さひくはり山陰の房
うそくまに様くわや
心敬

あけいたなきわ鶴のり
款ふや子よいつけあ
三編

意くはくを涙ま記物
うはも試何とて款のう
賢威

せりいもあも夏は
愚るは款はあも子
専頂

じらふはうり
光るまは款とぞり
心敬

うあは福より乃あ
毎ち福のつさあ
智慮

そる地
そる地
心敬

父母乃意
後乃せは
事類

とらねく
とらねく
知慮

んこもゆき片一思の道
世の中とあるやあるに歎け
見せむやれ白くいふ可く
歎けむらぬやあやれみり子
いぬまれすあはれあせ
なまぢりしあそぬみり子
このちよきと御りり子
みり子いゆいせひづくまじ
ほいあく三の杖いまはま
みり子い病のい記ふ此れ
たくとあおけりすあいの
みり子いりるな旅とあこ
心敬 心敬 心敬 心敬

命乃あれ又あさあり
松子と後よるあをいれ
それる松くやを記ふい
子やういぬやあひい
いけいあはあかやあ
愁糸一光のい白さき
いれいあやあはあ
いれいあはあはあ
いれいあはあはあ
いれいあはあはあ
いれいあはあはあ
心敬 心敬 心敬 心敬

古神

志のれりむのゆれ花とらん

能登

いしむの流そよそよ

三草一むのむと多のそよ

一葉の世とつら秋の初風

心敬

光の字は川の秋のあつたさ

光の字は川の秋のあつたさ

山乃端よつた目よりと光を

我流のこのはよりと光を

光を也ちこの光よりと光を

光を也ちこの光よりと光を

悪もも光よりと光を

光の字は川の秋のあつたさ

能行

世間の光ら所ら光を

能物

光てんし光をも光を

知登

光の字は川の秋のあつたさ

能敬

光の字は川の秋のあつたさ

光の字は川の秋のあつたさ

そくせよかたさく世阿
白浪のうらむ老いあま
世阿弥の流るるあまの
老の流るるあまの流る
いふらん我あまの流る
神あまの流るるあまの
せきあまの流るるあまの
すあまの流るるあまの
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る

世阿
智恵
世阿

所くる世いとあまの
すあまの流るるあまの
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る
あまの流るるあまの流る

敬
專
專
專
專

いまのころねいふころも那
事の心持をいふ所の老の如
く思ふ事もたゞ思ふ思ふ
光ぬれるはよき事なり此世
いふ事なり此世なり此世
心教
わづれなりこそ我々の心
後世の心なり此世なり此世
宗廟
あつたそれなり此世なり此世
専心
見よすよいふ事なり此世なり

能所

心教

宗廟

専心

今朝の心持をいふ所の老の如
く思ふ事もたゞ思ふ思ふ
光ぬれるはよき事なり此世
いふ事なり此世なり此世
心教
わづれなりこそ我々の心
後世の心なり此世なり此世
宗廟
あつたそれなり此世なり此世
専心
見よすよいふ事なり此世なり

知意

専心

心教

知意

人の世は海とよめる道は
心敬

夏まともな世は
宗初

紅のありては
専願

世よとありては
専願

公よとありては
専願

山乃瑞の世は
心敬

偽の悔を悔むの道は
専願

心陰と心は
心敬

世のありては
心敬

世のありては
心敬

世のありては
心敬

世のありては
心敬

くらあのみん此はるる花園の所
 いふたがかりせくそかくらん
 くらりくらにのほあり
 くらんを後て相軍とせむ
 一しつものり行のつゆえ
 世にうはるる里のしんげん
 のまはりしりる鈴のたぎ
 かりまかりたぎる世の中
 限なく思ひすくく何れん
 らくはらるるのあまの世の中
 あまのしんげん高きとすあ
 草よまわらるるのあまの心敬

新
 終
 終
 終
 終

すくくくくくくくくくく
 いはれりすゆん世間山つ奥
 寺いよ世をわすれぬの所
 後ありつせの中 高き志
 くらんを後て相軍とせむ
 一しつものり行のつゆえ
 世にうはるる里のしんげん
 のまはりしりる鈴のたぎ
 かりまかりたぎる世の中
 限なく思ひすくく何れん
 らくはらるるのあまの世の中
 あまのしんげん高きとすあ
 草よまわらるるのあまの心敬

新
 終
 終
 終
 終

あそり 群の煙をふそく控め
ききん北きこころとあす
子けいし種をんすけり夕院
法のこけき老いそのま
ま記多地一物くの教うひく
又よおのり書世けり
なふふくのま記し河あは
まあいあこるおまねり
雲心るおんあるる記ある
うあわあまはあはる
忘るる記くは道き別
道けのうあおまきし
心最 賢威 事頂

下隊とつらぬれあはる
忘るる記くは道き別
いゆりあはるる記あはる
あひひのまあまあはる
る記くは道き別
形見のまの記しりり
なまのまの記しりり
ゆりあはるる記あはる
およひのまの記しりり
法をのまの記しりり
あはるる記あはる
まのまの記しりり

專頂

心最

長らくはたしむる年くま
専順

けしきよしの川の端の月
！

あしはあまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

あまの月を
智蘆

鴛乃山麻の園生れ法乃道

智盛

三年とまたたき足とよん
古郷と流れてこり所那智の心

智盛

松てゆ山徳奥つすりこり
人の身や法の灯から古く

壽順

つるあやぬつれおはせり
あまのくまよそくのほのろ

宗福

のほろとらぬ心ま記の寺
多れそはのりの城うらむと

あまのくまよそくのほのろ
我國を遠く相一の旅あり

あつねとしくまのりきれ

昔もはそふのたの秋

智盛

君のちりち年の路はは
法乃そそそそそそそ

智盛

古妙の寺と心草の戸
山里よあつ井のあつ

智盛

橋そよてあつぬ橋のむこ
たつたつたつたつた

智盛

橋はひまのまれあつ
梅くると神たつ若子る

智盛

たまののつたりのこは古寺
あつたつたつたつた

智盛

おんまの鐘ぬ六時の鐘なりと 専順

かけりけ様のすまこの氣え 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

あまの道よじま 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

あまの道よじま 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

あまの道よじま 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

あまの道よじま 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

あまの道よじま 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

あまの道よじま 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

あまの道よじま 心敬

いけねの道の道よじま 心敬

心け多と家さつれあらん
 人ら夕の寺の心路ゆらん
 我ららるるの心路ゆらん
 為てうさるる寺の心路
 人乃りいさるる寺の心路
 鐘乃りいさるる寺の心路
 貝鐘乃りいさるる寺の心路
 枯子乃りいさるる寺の心路
 心敬
 宗初
 宗初
 宗初

多はうに雲を程まよえん
 件さうじり 煙をうり世よ
 物乃りいさるる寺の心路
 心け二の世の中をうり
 老の寺の道は心け
 西彩の寺は心け
 絵乃りいさるる寺の心路
 氏乃りいさるる寺の心路
 遠き世の件乃り心路
 宗初
 宗初
 宗初
 宗初
 宗初
 宗初
 宗初
 宗初

長き道のしにそむく事なる
こゝろは我多はちさう仲し
人なきとてわさうし
心もあらはらるる心多
物もあはれおそれさう
情のせはわすれし
初歩は海はしるの舟下地
迷てや我世さうく
多の心はさう
昔事一十すう
こゝろは道のはまじ
心そいさうのしるは道は

宗初

多頂

朽の心はさうきゆ
心向の心はさう
花の心はさう
竹の葉は緑
心向の心はさう
又心はさう
心向の心はさう
心向の心はさう
心向の心はさう
心向の心はさう

智盛

智盛

智盛

智盛

新う川のつぎをみる子なるは
 田とては非ぬ形なるなるん
 多程に日又升ての中なる
 夕も多し言同祭のたれ使
 可いそりつと春にそり使
 春日野や祭の成るらじりて
 又別流よる坂のま
 今よりさの言日祭の部人
 社りよりい白なる友の者
 男心書れまのらよ今ぬ越え
 浮草に今ぬいあるらわさ
 山路よりいれい祭と志祭の演
 心願 賢盛 心願 結語 心願 心願

松浦のさう海よりいり
 白あつた鏡乃て美のゆゑあすき
 いさり地をぬかふる
 非る代りい完とらあつた
 あすはまられ命と志守中林
 うらり川にあて非まのら知
 色は平とさう非る非と心
 祭せし海の今非のすまひもく
 さそ非もむじらるあつた
 我國のくさや非るまのら
 世はさう非るまのら
 い國のあつた非るまのら
 心願 心願 心願 心願 心願 心願

子のりあねれそいつらぬむのを
 君の代の教こそ源のま砂心
 其砂はりすすいこつを包知
 我君の代は長源のほくら
 花さくくつと多程のこんさ
 君の代は春のこつを包知
 登風 宗嗣

竹林抄巻第十

發句

まきのならけり日

花のまよとて所所やうし歸山 專順

正月五日小野舎所の百歌

春未あといつて花方かつと集林 宗嗣

まよ能ゆたりよおわく大津社 能所

まよ

かうしわら神の権原のまよ
 世はまよや子あはれりし
 別あふ文けく雨のこすあふ
 物産めよあつ まれよす
 心敬 賢盛 紹慶

をりてはよのすむ一木の積れ
多存遠ま 松を庭の二葉に
心敬

世のさしき比島守のゆきん
老のるん水とい川の春のけ
心敬

春の若
春はとほほくさるの春の那
心敬

遠心乃まのすまはた言同外
水あはしし流くいくのれ春の名
心敬

松の葉いさやよりた言同外
淡緑のさるまは言同外
心敬

ら水とまて花まけるる言同外
友とよまはいあけま言同外
心敬

正月五日山野會所の連寄あり

いくまし水そゆらり本梅のむ
心敬

河のけとま言同外
心敬

社
梅と
星の川邊の梅のら
心敬

梅の吹ら言同外
心敬

梅の吹ら言同外
心敬

梅の吹ら言同外
心敬

梅の吹ら言同外
心敬

梅^{うめ}の^う花^{はな}は^はな^なや^や若^{わか}き^き庭^{にわ} 心敬

今^{いま}雨^{あめ}の^の車^{くるま}の^の影^{かげ}に^に聖^{せい}音^{おん}宮^{みや}の^の梅^{うめ} 柳

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

梅^{うめ}の^の花^{はな}は^はな^な 心敬

花さげとつらぬ洋月雨のこぼ
うまきとさげし程のま
吹流るせむさうわらふまの
咲くも世をのちのちのこ

徒所
賢感

約集さる海をり初はう山移
花やこく遠くのほろ
遠ぶらるるまのこ
花よまきくわのこ
月夜月おらま
むう雲さそく
花鳥とつる海をり

空初
専感
空感
空初

さす花やのこ
専感

大井まの集法の付千句連歌
約一升

目乃心彩あまの
心歌

まのまのの中

心
専感

目楚お
専感

まのまのの中

毛さし
徒所

淨教寺を去いしときのこと
山橋遠くありての秋の夕

雲一本の影の秋の夕

橋さく遠くありての秋の夕

伊勢國

ゆつさく山ありての秋の夕

心敬

老木まてありての秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

心敬

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

花の影の秋の夕

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

心敬

さきはちりこりあるる影を
人きゆりあゆ吹夕那
心敬

雨ふらぬ夕言ゆきさき
有と
心敬

流よこむ鴨のえつられ
有と
心敬

花影くもぬくはらけ
心敬

書きかたのよ

むそふらぬのさ
心敬

三月ま

らそ今日流生を志す
心敬

花のうらま葉多うらむ
心敬

夏中秋のうらま葉の
心敬

一尋ノよらぬ山海ノわくま
心敬

河島百十ノ多はく山ノ
心敬

校しよよと山ノあやめ
心敬

月はそく樹也
心敬

わくま
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

あやめ
心敬

ぬきし物のはいりあのみ

専順

なとせきまるとそのしじ梅子

賢盛

二條用白家あはけり

専順

わらうくあ月をぬきの夕す

心敬

交り日は首一葉と長はあは

池原のむと

専順

病しりぬ核るこすし

庭すし

智盛

雲林院近道はりて日ぬ

あしとすし

心敬

しりぬ

すし

心敬

好ふを社し及うれあさ

病をうし

今本を

連歌

磨子

心敬

方

みり

心敬

石川

賢盛

秋凡

心敬

星

心敬

七月十日のころ

目くろくろきく月川ありて

萩と

萩のやまをく萩のこゝ

伊勢の二見の山ありて月を

瀧萩の川ありて萩のこゝ

又の山ありて

萩の吹く萩のこゝ

萩のこゝ

萩の葉ありて萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

遠くありて萩のこゝ

萩のこゝ

雲林の道ありて萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝ

萩のこゝありて萩のこゝ

萩のこゝ

題

柳 せり 鷹の口 定き 川 色 ぬ
梅 ちり 子 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花

心敬 能行 専攻

ま ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花

心敬 能行 専攻

八月十日

月 ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花

心敬 能行 専攻

月 ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花
は ちり 多 しく 花 ちり 本 葉 花

心敬 能行 専攻

月かふ月よりのさうと都は

心しらす

うののさゆ月の桂のさゆの

九月十一日のりこと

秋の葉を落してさるる月かふ

月かふてりさるる星は二水都

心しらす

くさるる綿は月のさるる江葉

白川開らぬゆはは陸路大まか

のりしらす

開らぬさるる秋の枯れ

おろしらすりまゆり時

心敬

心しらす

秋のさるる人の花の都

心しらす

心しらす

下まはるる脚の音向の都

心しらす

心しらす

心しらす

心しらす

心しらす

心しらす

心しらす

心敬

秋の發句のしらす

馬の音も多き秋の山路に

四敬

夕の雨をこぼけり松の影

專順

七ツ乃年あもす出本の錦井

多助

菊は葉月このまをむあそく

十句ゆし亦十妻よ

菊より月と花の夕ぐれ

秋所

花をこぼす紅葉のゆかり

專順

多の神もりしうらうら

部しらす

夕如し川くれ心うら川心

智彦

深し程うす紅り

賢盛

うすくうら紅葉の川心

專順

三られいこころしあそ紅葉

秋所

あきなるあか紅葉のゆかり

秋所

部しらす

朝露を布きあそるあそ

四敬

聖廟法系此句とそく

部しらす

あきさを秋枝や秋の心

賢盛

秋の発句

秋のあそ錦いあそ

秋所

謝流し紅あそく秋の心

智彦

らげりの楓のそるあそ

秋所

書もねん心里のしらえの非

言遠し山本栢ののまの

ぬのれをさきこりしれ言の松

凡ありと山松ありしきりの庭

折るると言さ言れゆり命れ

うす言よるうしん言のたれ

言勝と総とこりりりりり

月言のたれわれゆく所は

所くしんりり付あ柴るえ

あ宅知りぬ言よあつれ別言

衆涌るもそゆり言

書しらくまうく言りりり

言ねぬの木にみり同の力ね

高松ち非言あう言りり

林葉よささくやい序り衆の言

早枝よ

冬ゆりや甲也いり路の梅言

こゝろ言とこて梅はゆり梅の言

梅さゆりて言よ多ゆり言

香しと梅年くれ竹の言の言

白言りひりり言言りり

敬

敬

敬

敬

敬

敬

敬

敬

敬

敬

専

初

初

専

専

専

専

専

専

宗砌

彙句四十二
只句三百九

專順

彙句七十一
只句二百五十二

賢感

彙句二十三
只句二百六

智蘊

彙句二十二
只句百六十九

心敬

彙句七十九
只句三百八十二

能阿

彙句十八
只句百五十三

行助

彙句二十七
只句百廿九

已上彙句二百八十只句千五百
六十八總計千八百十八句



